第９回　慢性期リハビリテーション学会
学会発表抄録
発表演題『回復期リハビリテーション病棟入院患者における体重増加因子の検討』
筆頭演者：徳原　里衣
共同演者：黒沼　慎太郎、小野 一直、石田 英稔

【目的】国民健康栄養調査では、目標とする BMI（21.5～24.9）を下回る割合が、70 歳以上男性で 20～30％・女性で 40％と示されている。また、回復期リハビリテーション病棟（以下、回リハ病棟）入棟中高齢者の 43.5％が低栄養との報告もある。当院回リハ病棟では 69.4％に低栄養を認めた。低栄養の改善には体重減少抑制が課題とされており、回リハ病棟入院料 1 では、常勤管理栄養士の配置が要件となっている。
体重減少リスク因子に関する報告は多数あるが、体重増加に関する報告は少ない。そこで、本研究では体重増加因子について調査した。
【対象】2019 年 10 月～2021 年 3 月に当院回リハ病棟を入退院した患者 146 名（BMI25 以上、データ欠損の 38 名は除外）。
【方法】入院中に体重が 3％以上増加した群（以下、増加群）としなかった群（以下、非増加群）に分け、後方視的に調査した。調査項目は年齢、性別、主疾患（脳卒中・運動器・呼吸器・廃用）、既往歴（脳卒中・呼吸器・心疾患・DM・HT・CKD・褥瘡・嚥下障害）、BMI、FIM、HDS-R、日常生活自立度、経口の有無、摂取カロリー、InBody 測定値（細胞内水分量・細胞外水分量・骨格筋量・筋肉量・体脂肪量・体脂肪率・ECW/TBW）とし、各項目について単変量解析を行った。
【結果】有意差を認めた項目：増加群/非増加群
①脳卒中の既往歴（％）：44.2/23.4、②BMI（kg/㎡）：18.2/20.5、③体脂肪量（kg）：10.3/15.7、④体脂肪率（％）：24.6/32.2
【考察】①脳卒中患者では、筋量が増大し脂肪量が減少する肥満型と、筋量が減少し脂肪量が増大するやせ型が多くなる傾向だが、本研究ではその傾向は認めず原因の特定はできなかった。②増加群の方が目標とする BMI との乖離が大きかったためと考える。③④脂肪量は 20 歳代から増加し 70 歳代から減少に転じる。一般的に高齢者では、筋量減少が体重減少に影響すると考えられているが、体重増加においては、脂肪量の減少が影響している可能性が示唆された。

抄録本文　797.5 文字